

深イ～話!

No.14

両手両足の切断という重い障害を抱えながらも、人生を力強く生き抜いた一人の女性 中村久子。ヘンレンケラーに『私よりも不幸な、そして偉大な人』と称賛された。中村女史の次女・富子さんのお話をお届けします。

~~~~★~~~~★~~~~★~~~~★~~~~★~~~~



母の72年の生涯というのは、辛いことのほうが多かったと思うんですね。

母が子供のとき、一生懸命、口で縫ったお人形の着物をお友達にあげたら、その子のお母さんに

「こんな唾<sup>つば</sup>で濡れた着物なんか汚くて。」と川に捨てられて、ものすごくショックを受けたという話があるんです。

母は私に言ったんですが、あの時は、悔<sup>くや</sup>しいよりも捨てられたことよりも、そんなものしか縫えない自分が情けなかった。それからまた、一生懸命に練習して、濡れないように縫えるようになるまで13年半かかって言うんですよ。

その人の一言がなければ、母さんはいまだに濡れたまんまのお裁縫をしていたかもしれない。なんとか濡れないように縫いたいと思って、縫えるようになったんだから、感謝しなければいけないのに、なかなか感謝ができない。言われたことを、自分は決して忘れられない・・・と。

その人とはその後も何度も会って、向こうは自分の言ったことは完全に忘れていて、「富子ちゃんが大きくなりましたね。よかったですね、久子さん」なんて言うてくる。

でも、自分の胸の内では、グーッと込み上げる悲しさがあるんですって。そして、私に言いました。

「人に言葉をかけるときは、気をつけなさいね。何気なく言ったことが、相手を傷つけて一生心に残ることもあるからって。」